

## 「研究開発投資の経済効果分析とその政策立案への応用に関する検討会」について

平成24年2月6日

科学技術政策研究所

### 1. 目的

政府では、研究開発投資を通じた科学技術イノベーション政策の展開により、経済成長や雇用の創出などの経済効果や、生活の質の向上、社会システムの変革などの社会的波及効果を実現しようとしているところであり、当研究所ではこれらの効果を分析するための調査研究を実施している。

この中で、当研究所では、経済効果を分析するためのマクロ経済モデルについての研究にも取り組んでいるところであるが、マクロ経済モデルによる分析では、現実の複雑な経済や社会の状態を簡略化しモデル化して取り扱うため、その方法論や導き出された結果の信頼性などに対し、経済学の専門家などの中で様々な意見が存在する。

このため、有識者等による「研究開発投資の経済効果分析とその政策立案への応用に関する検討会」を試行的に実施することにより、参加者間でマクロ経済モデルによる分析やその政策への応用についての現状や課題について議論するとともに、マクロ経済モデルによる分析という方法論やその妥当性について広く一般的に認知され得る方策について議論する。

来年度以降は、マクロ経済モデルによる分析に対し批判的な立場の研究者も含め、経済学の学識経験者、政策立案のステークホルダーなどが参加する公開形式のワークショップを開催し、参加者間でマクロ経済モデルに関する研究の意義と政策立案への導入に向けた課題を共有するとともに、政府研究開発投資の経済的波及効果の分析を如何に深化させることが出来るかについて、関係者間相互の理解を深める。

2. 日時 平成24年3月30日(金) 13:30~17:30

3. 場所 科学技術政策研究所会議室(新霞ヶ関ビル1階)

### 4. プログラム

- 開会挨拶(科学技術政策研究所)
- 挨拶「研究開発投資の効果分析に対する期待」(文部科学省 政策科学推進室)
- 本検討会の趣旨((株)三菱総合研究所)
- 「研究開発投資の経済波及効果に関連するNISTEPの取り組み紹介」  
(科学技術政策研究所)
- 有識者による講演

- ・「マクロ経済モデルを用いたこれまでのとりくみ（仮題）」（九州大学 永田晃也教授）
  - ・「マクロ経済分析における現状と課題（仮題）」（内閣官房 川崎泰史氏）
  - ・「社会保障分野におけるマクロ経済モデルの政策への応用（仮題）」（明治大学 加藤久和教授）
- 研究開発投資効果のマクロ経済分析に係る海外動向の紹介（（株）三菱総合研究所）
  - パネルディスカッション：政策ニーズを満たす方法論、課題と方向性（パネラー＋会場参加者）

5. 運營業務の委託先：（株）三菱総合研究所

6. 来年度以降の予定

本検討会の結果を踏まえ、来年度以降、公開形式のワークショップを開催（年2回程度）することにより、上述の目的の達成を図る。

以上